

## 〔5〕 特別活動による実践

### 生徒たちが主体的に運営する集会活動の実践〈学部集会〉

#### (1) 基本的な考え方

高等部では、学部集会をホームルーム活動の一環として位置付け、集団生活の向上や生活上の諸問題の解決をめざした取り組みを行っている。

ホームルーム活動の時間は、週一時間、月曜日の 2校時に位置付けられ、学級独自の活動と学部集会へ向けての取り組みを並行しながら進めている。ホームルーム活動では、各学級での実態に応じたきめ細かな実践が行える。また、学部集会では、学年を越えた人間関係の拡がり期待でき、学部全体での問題を共に考えたり、大人数での楽しい会を計画したりすることが可能である。

高等部では、以前は教師中心で進めていた学部集会を、実行委員を中心とする生徒たちの手で計画・運営にあたるようになって 3年目になる。まだ、教師の支援が必要ではあるが、生徒による運営の流れが定着しつつある。

そこで、本年度は、実行委員会の運営による学部集会に加えて、学部全体で準備していく集会も取り入れたいと考えた。

実行委員会の運営は、基本的には、次のように行う。

- ・実行委員会の任期は、前後期の 2期制とし、前期は 1年生（1名） 2年生（1名） 3年生（2名）後期は 1年生（1名） 2年生（2名） 3年生（1名）の 4名で編成する。前期は 3年生、後期は、来年度につなげる意味も含めて 2年生が中心になって運営する。
- ・実行委員会は、昼休憩を利用して児童生徒会室で行うが、内容によっては特設時間をとることもある。
- ・実行委員会で、学部集会でみんなでしたいことを出し合い、計画の構想を練る。さらに各学級へ構想を伝えるとともに、要望、意見を聞き調整する。
- ・実行委員は、計画に従い、学級や教師に発表や準備を依頼する。
- ・学部集会当日の運営をする。

以上のような、主体的な学部集会の取り組みをとおして、学校生活、卒業後の生活で豊かな生活を築く一助としたい。

#### (2) 実践事例

学級との連携を取りながら運営した「教生の先生とのお別れ会」（9月）、学部全体で縦割りグループの係活動による準備を進めて当日思いきり楽しんだ「忘年会」（12月）の様子について取り上げて述べてみたい。

#### 学部集会（9月）「教生の先生とのお別れ会」

##### ① 題材選定について

- ・短期間ではあったがお世話になった教生の先生（教育実習生）との楽しい思い出づくりを学部集会の内容に取り入れることで、生徒たちが関心を持って意欲的に取り組むことができる。

- ・ 1学期は、実行委員会を中心に計画することが多かったので、各学級との連携を大切にしたい取り組みを取り入れていきたい。このお別れ会で、教生の先生と一緒に楽しむことを各学級で準備することにより、生徒一人ひとりの発想が生かされ、各学級との連携がより密になる。

## ② 支援の工夫

### a 当日までの取り組み

実行委員会を中心に、各学級との連携を大切にしながら、準備・運営を次のように進めた。

- 9月 3日 ・実行委員会で、学部集会のねらいを確認した。また、教生の先生へのお礼のことばやみんなで楽しむことを、各学級で準備することについて話し合った。そして、決まったことをまとめ、教生の先生や各学級に話し合い・準備を依頼した。
- 4日 ・各学級が、ホームルーム活動の時間に、お別れ会でみんなで楽しみたいことを話し合った。担任は、生徒の思いを生かしながらも、他の学級と内容が重ならないよう調整をしながら助言をした。その結果、1年は〇×クイズ、2年は椅子取りゲーム、3年はしりとりゲームとダンスに決定し、当日へ向けて準備を進めていくことにした。
- ・実行委員会で、各学級での決定事項を確認し、当日のプログラムや実行委員の役割を決めた。
- ～15日 ・実行委員は、休憩時間を利用して、プログラムの準備、司会進行・挨拶の練習等を進めた。
- 16日 ・学部集会当日の朝、実行委員は他の生徒にも協力してもらいながら会場設営をした。

### b 当日の様子

当日は、高等部の生徒・教師・教育実習生が一堂に会し、次のような心のこもったお別れ会を展開した。

活 動	支援と生徒の様子
<p>(進行 B子 K男)</p> <p>1. はじめのことば (D子)</p> <p>2. 各学級で準備したクイズやゲーム等をしてみんなで楽しむ。</p> <p>1年 ○×クイズ</p>	<p>1. 緊張しがちなので、繰り返し練習した内容のメモを持って落ち着いて言うように声かけをした。</p> <p>2. 教育実習生や教師も生徒のなかに入って盛り上げ、一緒に楽しむ。</p> <p>・よく挙手し問題に応答していた。問題が、生徒の身近なことからたくさん出題され、答えやすかったようだ。</p>

<p>2年 椅子取りゲーム</p>	<p>・合図に対する反応が遅れがちな生徒には、近くにいる教師が安全に留意しながら、声かけをした。よく知っているゲームなので、友だちの動きをよく見ながら素早く動いて楽しむ生徒が多かった。</p>
<p>3年 しりとりゲーム ダンス 「そのままの君でいて」</p>	<p>・ほとんどの生徒がよく言えた。困っている生徒には近くにいる教師が小さな声でヒントを与えた。10秒以内で言う約束がしてあり、みんなで数を数えながらテンポよく進んでいった。ダンスは照れながら踊る生徒もあったが、みんながリズムにのって楽しみ、とても盛り上がった。</p>
<p>3. 教生の先生へのお礼のことばを言う。</p>	<p>3. 短い期間であったが、いろいろな学習を教してもらったり一緒に遊んだりしたことに感謝の気持ちをこめて準備したことばを、落ち着いて心をこめて言うよう励ました。3人とも落ち着いて心をこめて言えた。</p>
<p>1年 C男 2年 G男 3年 C子</p>	<p>4. 教育実習の思い出を次々と話されるのを、生徒たちは一生懸命聞いていた。</p>
<p>4. 教生の先生の話聞く。</p>	<p>5. 自分の気持ちを盛り込んだ内容を練習してきており、落ち着いて言えた。</p>
<p>5. おわりのことば</p>	

### ③ 指導を終えて

各学級での考えや準備が生かされ、教生の先生との別れを惜しみながらも、楽しい雰囲気の中で会が行われた。実行委員も一人ひとりが自分の役割を自覚して、大きな声で生き生きと進行にあたっていた。しかし、各学級で決めたみんなで楽しむことは、生徒が今まで繰り返し経験してきたクイズやゲーム等で、新しい経験や楽しみを拡げることにはつながらなかった。

### 学部集会(12月)「忘年会」

#### ① 題材選定について

- ・今年締めくくりに、思い出を振り返り来年も頑張ろうという気持ちをこめた楽しい会をしたい。
- ・大人らしい雰囲気を味わいながら取り組むことができ、卒業後の生活につながる新たな経験や楽しみ方を知ることができる。
- ・本人の希望を生かした係を決定して縦割りグループによる準備を進めることで、生徒が意欲的に取り組み、みんなで作っていき満足感が得られる。

#### ② 支援の工夫

##### a 当日までの取り組み

実行委員からの依頼を受けて、各学級で、忘年会でしたいことを話し合った。この話し合いでは、教師も仲間の一人として、今まで経験した楽しい会を思い起こさせたり、参考

になるようなアイデアを投げかけたりしながら、様々な意見が出るように心がけた。その結果、よく生徒のなかから出てくるクイズ、ゲーム、カラオケ等の他に、十大ニュース、宝探し、ビンゴゲーム、持ち寄りバイキング、プレゼント交換、有志の出し物（他の学年の人としてもよい）、ポウリング（校外で）等、各学級からたくさんの意見が出てきた。

実行委員会で、これらの意見を検討した結果、「忘年会」の内容を大きく、十大ニュース、出し物、会食とし、係活動を中心に準備を進めることにした。そこで、合同ホームルームの時間を持ち、実行委員長が「忘年会」の日時・ねらい・主な内容をみんなに知らせた。そして、十大ニュース・出し物・会食・会場係の内どれを希望するか聞き、ほぼバランスよく決まっていた。細かい内容や準備の仕方については、係ごとに工夫をこらすことを教師がつけ加え、意欲づけをした。

その後、係活動の時間を日を5時間取り、当日まで協力しながら次のように取り組んでいった。

- ・十大ニュース係・・・今年のできごとを思い出しながら、たくさん書き上げて印刷し全員に思い出に残ったことをアンケートして十大ニュースとしてまとめた。
- ・出し物係・・・カラオケ、花の名前あてゲーム、手品、マジカルポーズ、ビンゴゲームに決めて、分担しながら準備を進めた。
- ・会食係・・・高等部の生徒や教師の意見も聞きながら、カップケーキやポテトチップス等のメニューを決めて、作った。
- ・会場係・・・実行委員を中心に、集会の司会、プログラム作り、会場設営の準備を進めていった。席順や飾りつけにも工夫をした。

#### b 当日の様子

当日は、それぞれの係が準備してきた成果を精一杯発揮して、時間が足りないくらい楽しいひとときを過ごした。生徒一人ひとりに活躍の場があり、満足感を味わっていた。



出し物の様子

#### ③ 指導を終えて

自分の好きな係活動にじっくり取り組むことで、生徒一人ひとりの力を十分に生かすことができた。また卒業後の生活にも生かせる立食パーティーやビンゴゲーム等、初めての経験を取り入れることができ、生徒の生活の幅を広げることに役立った。

#### (3) 反省と課題

生徒たちは、学部集会の運営の一連の流れを知り、進行も上手になってきて、自分たちで進めていこうという自覚もできつつある。これからも、生徒の主体性を育てながら、高校生らしい集会活動をめざしていきたい。また、参加の困難な生徒への個別対応の仕方や思いの取り上げ方等、支援のあり方をさらに工夫する必要がある。 (小杉武寛)